〔 研究区分　：　学際的・先端的研究（A）〕

研究テーマ　：　父親の育児支援プログラムの確立を目指した育児講座の提案	
研究代表者　：　助産学専攻科 准教授・小山里織	連絡先　：　skoyama@pu-hiroshima.ac.jp
研究協力者等：　理学療法学科 准教授・島谷康司，　助産学専攻科 助手・鳩野愛	

【研究概要】

本研究の目的は，父親の育児参加の確立を目指した育児講座を提案するために，育児講座（『パパ・ママと共に創る育児講座』）を開催し，参加者の語りから，育児講座の実態を明らかにすることであった。生後 6 ヶ月～生後 18 ヶ月の子どもをもつ夫婦を対象に，育児講座（親子のふれあい遊び，“フリートーク”など）を開催した。“フリートーク”では，「過去に参加した講座」「今回，講座に参加した経緯」「参加したい講座」について，多くの意見が得られた。また，参加者全員から，今回の育児講座への参加や内容について，高い評価を得ることができた。

【研究内容・成果】

問題・目的

厚生労働省は，2010 年の改正育児・介護休業法の施行と合わせて「社会全体で，男性がもっと積極的に育児に関わることができるように，2010 年 6 月に「イクメンプロジェクト」を開始した。『平成 26 年版　少子化社会対策白書』には，「男性の子育てへの関わりを促進する」として，イクメンプロジェクトの開始だけではなく，「父親の育児休業の取得促進」「父親の育児に関する意識改革，啓発普及」「男性の家事・育児に関する意識形成」のために「企業等への出前講座や父親向けの家庭教育に関する講座の実施など，地域が主体的に実施する家庭教育に関する取組を支援」することの必要性が述べられている。こうした社会的政策を背景に，近年，父親の子育てを扱う研究（加藤,2008;大野,2012 など）が注目を集めている。しかしながら，これらの先行研究では，父親の育児行動が父親を対象に実施された育児講座の影響をどれほど受けているか，育児期にある父親が何に興味を持っているのか，父親が育児で困っていることは何なのかについて詳細に検討したものはなく，父親を対象とした育児講座のあり方や効果について実証した研究は見当たらない。本研究の目的は，父親の育児参加の確立を目指した育児講座のあり方を提案するために，以下の 3 点を検討することであった。1)父親は育児をする中で何に興味を持っているのか。2)父親は育児において困っていることはあるのか。あるとすればそれは何か。加えて，本研究の意義は，“パパ・ママと共に創る育児講座”と題した育児講座を開催し，参加者が育児の模擬体験や，育児について自由に語り合う中から，子育ての楽しさを発見することであった。

方法

(1)　開催時期・場所：平成 28 年 3 月中旬。所要時間約 2 時間。サテライトキャンパスひろしま

(2)　参加対象者：生後 4 ヵ月から 16 ヵ月の子どもをもつ夫婦 10 組程度。

内容：①親子ふれあい遊び，②フリートーク，③ミニレクチャー。本講座は，参加者（特に父親）の語りから，育児講座の実態を把握することを第一の目的とするが，“フリートーク”の前に他の参加者と共に親子のふれあい遊びをすることで，和やかな雰囲気となり，語りがスムーズとなることが予測されたことから，まず初めに保育士によるふれあい遊びを行った。ふれあい遊びでは，夫婦ペアで家族の紹介をした後，参加者同士が交流できるよう，夫婦だけでなく，お父さん同士がペアとなり，シーツ遊びなどを行った。“フリートーク”では，父親と母親に分かれ，家事・育児への関心ごとについて，30 分程度，自由にトークや情報交換を行ってもらった。“フリートーク”終了後のミニレクチャーでは，“フリート

写真 1 ふれあい遊びの様子

ーク”の内容に触れ，父親と母親とで，トーク内容を共有した。申請者以外に研究協力者（本学理学療法学科・准教授・島谷康司，助産学専攻科・助手・鳩野 愛）に ，“フリートーク”でのファシリテーターを務めてもらった。なお，“フリートーク”中，同スペースの端に託児スペースを設けることで，参加者が“フリートーク”に集中できるよう環境を整えた。

結果と考察

“フリートーク”の一例を Table１に示した。参加者（父親）が，過去に参加した講座は，病院で開催される妊娠期の講座のみで，全員，育児期における講座は今回が初めてであった。また，本講座に参加した経緯は，全員が母親に誘われての参加であったが，*「『パパ，パパ』ってなるにはどうしたらいいの？」*という言葉に示されるように，総じて，父親の育児への関心が高いことが特徴であった。但し，父親グループの“フリートーク”は，母親グループほど，多くの意見がでたわけではなかった。興味深い点は，だれか一人の発言後，毎回，*「ある ある」*と頷く人が多く認められたことである。*「周りも同じだと安心する」「他のお父さんも同じ悩みがあると分かった」*という語りや，*「育児のことについて，家族以外に話す人はいない」「仕事でも話すけど，少しかな･･･」*という語りからも，母親だけでなく，父親も，日常の子どもとの関わりについて，ストレスや不安を感じていることが窺える。一般的に父親は，育児における第２の養育者と言われる。そのような父親にとって，育児におけるスキルアップよりむしろ，生活に密着した内容（例えば，他の父親が育児において何をして，どんなことで困ったか，子どもはどんな遊びを喜ぶかなど）に関心が高いと考えられる。本講座から，育児情報を共有して，「自分だけではない」と感じることができる時間が，育児期の男性にとって大切となることが示唆された。

Table1　父親のフリートークの一例

これまで参加した講座は，何があるか
「病院で立会い出産するために開かれた教室」
「ゲップやオムツ交換の方法を教えてもらう講座」
今回，講座に参加した経緯
「初めての子どもだし，講座などあれば行っておこうかなと思った」「母親に誘われて」
「子どもと接する時間が短くても，『パパ，パパ』ってなるためにはどうしたらいいか？」
どのような講座だったら，参加したいか
「“かしこい子どもは父親で決まる”みたいなフレーズがあったら惹かれる」
「プレゼントがビールだったらいい」
「こんなのがあったらいいな～というのはないが，父親の『･･･あるある』とか，周りも同じだと知ると安心する。」
「子どもがいっぱい遊べる」「飲み会付き育児講座」
育児で関心のあることは何か
遊び方，しつけ，病気，教育・習い事，外出
家事の中で関心のあることは何か
炊事，買い物（生活用品），特になし
その他
「他のパパも同じ悩みがあることがわかった」
「こうして話してみると楽しかった」

写真２ パパたちのフリートーク

まとめと今後の課題

本講座では，ふれあい遊びや“フリートーク”を通して，参加者同士が交流をもち，育児について表出することで，参加者から高い評価を得ることができた。但し，男性は女性と比較すると，仕事以外のコミュニティへの参加が少なく，初対面で女性のように会話することが難しいことを考慮すると，会話しやすい状況設定，話題提供が必要と言える。さらに，本講座の参加者は，育児に関心の高い父親であったが，多くの男性は，休日は家族で過ごしたい。のんびりとしたいと考えるのが一般的であろう。本講座への申込みは，７組であったことからも，より多くの父親に参加してもらうための勧誘方法も課題である。